

審議会会議録

会議名称	平成28年度 伊達市まち・ひと・しごと創生有識者会議成果検証グループ会議		
議 題	議事 (1) 報告事項 ①成果検証グループの設置について (2) 協議事業 ①平成27年度実施事業の事業成果の検証について		
開催日時	平成28年7月15日（水）18:30～19:45		
場 所	伊達市役所 2階会議室A・B		
出席委員	石井吉春 委員、樽見弘紀 委員、渡邊源之 委員、宇佐美雅昭 委員、大矢大介 委員、的場重一 委員、杉原 茂 委員、舘崎雄二 委員、小畑次男 委員、尾川圭延 委員（計10名）		
	所管部課名	企画財政部企画課	
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者人数	1名
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p>【審議会の概要】</p> <p>1. 開 会（事務局：企画課長）</p> <p>2. 議 事</p> <p>(1) 報告事項 ①成果検証グループの設置について 【事務局より説明】</p> <p style="padding-left: 20px;">【質疑・意見交換】なし</p> <p>(2) 平成27年度実施事業の事業成果の検証について 【事務局より説明】</p> <p style="padding-left: 20px;">【質疑・意見交換】</p> <p style="padding-left: 40px;">■座長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合戦略を策定した昨年度に既に先行型として実施した事業の評価を行うもの。7事業のうち予定どおり止める事業が1事業でその他は継続する内容。KPIは4事業が目標を満たす結果となっている。基本的な評価に関わる点について順番にご発言をいただきたい。 <p style="padding-left: 40px;">□委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊達野菜ブランド化事業について、生産者の売上増が達成されれば、生産者数の増に繋がる。今後の成果をきちんと生産者に発信することで産地化が加速していくと感じた。 			

■座長

- ・ブランド化は農家所得増と農家戸数の増がポイント。事業のさらなる磨き上げが重要となる。

□委員：高糖度トマトの生産で発生した生育障害は解消されたのか。

○事務局

- ・解決に時間を要したが後半は解消した。順調に生産されればある程度売っていきける状況にある。

□委員

- ・大滝区観光客誘致事業での、地域おこし協力隊は確保されたのか。また、その役割は。

○事務局

- ・来月より1名を確保した。交流人口増に向けたこれまでの取組みの拡大が重要と考える。

■座長

- ・地域おこし協力隊の活用は、ミッションに忠実に実施することも大切だが、地元への定着を視点に入れなければ短期的な意味のないものになる。その点を付け加える。

□委員

- ・事業の評価については、初年度として言うことはない結果である。基幹産業の農業でどう稼ぐかについて、道の駅の伊達市観光物産館の入込客数は138万人であり、聞けば6割が市外客。道の駅は観光客をまち中誘導するための情報発信基地として、機能充実させる必要がある。農家所得が上がれば投資意欲が湧き、新たな人手が必要になる。空き家情報の発信や就労支援などワンストップで実施できればよい。

■座長

- ・まち中に人を呼び込む要素を持たなければ面的な拡がりに繋がらない。伊達まちカードはまち中の商店で加入しているところはないのでそこが課題。分析により顧客動向が把握できれば課題点が見えてくるはず。

□委員

- ・評価案への異論はないが、空き家ストック有効活用推進事業で15世帯の移住世帯の傾向は。

○事務局

- ・9割方道内からの移住者でその半数は札幌市から。世代層の把握は行ってない。

□委員

- ・地域循環型ポイントカードのKPIは、総合戦略では物産館の入込客数ではなくカード発行枚数ではなかったか。

○事務局

- ・総合戦略ではカード発行枚数だが、地方創生交付金の先行型事業の事業計画は総合戦略策定前に作成したものである。そのため事業計画書では入込数をKPIとして設定したもの。

□委員

- ・空き家ストック有効活用推進事業によって判明した市内の空き家所有者へのアンケート結果によると、物件を利活用する意識が低い点が課題として見えてきた。また、既に所有者が市外転居しているケースの相当多い。開設した空き家バンクで物件を紹介できるよう、丁寧に時間をかけて取り組む必要がある。

■座長

- ・空き家を積極的に活用しない傾向が強い。所有者の手間の部分を支援する仕組みを先行事例から学ぶ必要がある。

□委員

- ・事業成果は1年ではまだ分からないので評価案に異論はないが、健康増進プログラム事業など各種事業に関わった民間事業者名を知ることが可能か。どのような事業者が参加して活躍したのか参考にしたい。

○事務局

- ・事業者名等の公表は問題ない。健康カラオケは第一興商である。今後もカラオケ情報の提供を受け関わりは続く予定である。

□委員

- ・大滝区観光客誘客事業で、観光入込客数の減がホテルの休館のためとあるが、そのホテルは高級志向化で客室を減らしており今後も大きな増加は見込めない。地域おこし協力隊の活動やノルディックウォーキングやランナーズキャンプなどの事業の継続、回数増加に取組まなければ、現状維持かマイナスになる可能性が高い。ただ1年目でこれだけの事業を抱えて実施したことは評価したい。

■座長

- ・入込客数が増えなくても評価できる軸があるかどうかを視点に検証していきたい。

□委員

- ・野菜ブランド化事業について JA 伊達市など関係団体との連携をもっと図らなければ幅広く事業が展開できない。空き家問題も宅建業者との連携が必要。人口を少しでも増やすには空き家物件の活用も重要。健康増進プログラム事業も健康づくりにはすごく良い。全市的な拡大を進めて欲しい。

○事務局

- ・平成 27 年度は黄金、有珠で実施し認知していただいた。平成 28 年度は実費をいただく中での拡がり状況を把握したうえで拡大に向けた検討を行う。伊達野菜ブランド化の関係では、伊達市農協の生産者グループと協力しながら今後も進める。平成 28 年度でも国の交付金をいただき、引き続き取組みを進めており、今年度は JA 伊達市や伊達市観光物産公社等と協議会を設立し事業を開始している。プレーヤーとなる民間事業者と連携して事業を進めておりますので、推移を見守っていただきたい。

□委員

- ・結果を見て順調に進んでいると感じた。お疲れ様でした。その前提で申し上げると、国の交付金もらうには数値目標を掲げて実施することは最低限やらなければならないこと。でも、国の交付金を使って伊達流にやっつけのけるぐらいのしたたかさが需要である。いろいろなことが少しずつ上手く回りだしているが、この先は焦点をいくつか絞っていかねば伊達の魅力が上がらない。移住理由や満足度、生活環境などを分析し、その方が満足するまことにすることが伊達流だと思う。道の駅の観光客が伊達をスルーして洞爺湖やニセコに行くのはもったいない。観光客が市内をめぐるような戦略をここから先はやる必要があると感じた。空き家バンクも伊達流に、例えばリノベーションして「伊達の空き家は住み心地が良い」という評判をたてるとか、遠隔地のオーナー物一物件はすべて役所が面倒を見るとか、何かひと技加えることが次のステップとして大事だと思う。

■座長

- ・それぞれ委員の皆様から貴重なご意見をいただいた。今後反映していただくこととして、評価案についてはこのとおりに認めることを本会で決したということによろしいですか。

全委員

・はい

■座長

・これで会議を終了します。ご協力ありがとうございました。

2. その他

●事務局

・次回は今日の検証結果を基に全体での有識者会議を開催いたします。開催時期は9月を予定しています。

4. 閉 会